

第90号

平成30年2月19日

中三 北村 拓豊
高二 三木康太郎
中川 多聞
川飛 謙馬

読書三昧

甲南中学・高校
図書館
図書委員会
芦屋市山手町
31番3号

戦後もない昭和二三年、まだ戦火の傷痕が至るところに残っているなかで「読書の力によって、平和な文化国家を作ろう」という決意のもと、多くの人たちが協力して『読書週間』が開催されました。甲南では一週間では短すぎるということで一ヶ月まるまる使っているということです。

甲南では毎年十一月を読書月間としています。この期間中は、テーマを決めています。今年のテーマは『ショーカツつて?』で、甲南大学の西宮キャンパスから就活を経験した大学生3名による『就活』に関する講演が行われました。講演はテーマが『就活』に関することなので中学生は少ないと思われましたが、中高合わせて多くの生徒が参

読書月間とは

加していました。大学生の

方々が自身の就活の話をし

てくださったり、就活のこ

とをわかりやすく説明して

くださいり、私たちも就活と

いうものに関する理解が少

しは深まつたかと思います。

また図書館でのイベントだけではなく、LHRで全校

一斉読書を行い読んだ本を

レポートにするという取り組みも行っています。中学

でレポートにされていた作

品は『打ち上げ花火、下か

⇒ 映画『何者』
監督…三浦大輔
配給…東宝
公開…二〇一六年



⇒ 「打ち上げ花火、下から見るか？」

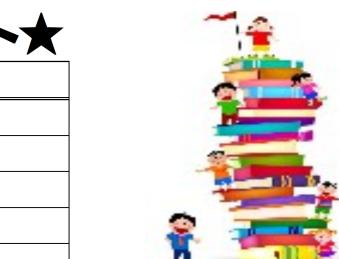


出版…角川文庫
原著…岩井俊一
著者…大根仁

甲南読書月間

店頭選書

寒さが一段と厳しくなつた十二月下旬、ジュンク堂三宮店で図書委員による店頭選書を行いました。ジュンク堂の一階から最上階まで様々なジャンルの本を図書委員が探し合計43冊を購入しました。図書委員が選書した本は図書館に置いてあるので、興味がある方はぜひ一度お立ち寄りください。下の表は選書した本の一部です。また図書館では、生徒からリクエストのあった本を購入しているので、ぜひ利用して下さい。



★図書委員が店頭選書で選んだ本のリスト★

書名	請求記号
一流家電メーカー「特殊対応」社員の告白	007.3/S
島津家の戦争	283/3
マンガでわかるビットコインと仮想通貨	338/M
紅一点論 アニメ・特撮・伝記のヒロイン像	367.1/S
人生百年私の工夫	367.7/H
ファンタジーとSF・スチームパンクの世界	723/05
母性のディストピア	778/77
神様たちのお伊勢参り [1]	y/たけ
猫が見ていた	y/N
さむけ ホラー・アンソロジー	y/S
僕は小説が書けない	y/なか
猫鳴り	y/ぬま
白雪姫には死んでもらう	y/ノイ



灘甲戦読書会

灘甲戦。今年度の灘甲戦は、甲南で行わされました。両校の運動部が熱戦を繰り広げている間に、毎年甲南図書委員と灘図書委員の交流を行っています。今年も読書会を行いました。今回の課題本は、住野による『君の脇臓をたべたい』でした。

高一 浅野そら

私は誰かと本について語り合うということをしたことはなかった。趣味の合う人がいないかもしない。というわけで、課題本を二度読むくらいには楽しみにしていたのである。

こう文が始まるとああこれは面白くなかったのかなあと思われるかもしれないがそうではない。ただ思つていたのとは少し違ひこう妙な感じになってしまったのだ。

つまりもつと議論みたいになるかと思つてはいるが、そうではなく全員の意見がかなり近かつたということなのだ。構えていた私は拍子抜けして、代わりに突如任された書記の仕事に苦戦した。

正直に言えば読書なんて一人でやるもんだと思つていいたちである。誰かとこがいいとかだめだとか楽しくしゃべれるものでもなく自分の中でああよかつ

たなどかひどい駄文だった

などか、私はそういうのを読み書きだと思っていて。でも食わず嫌いはよくない。可能性が広がらない。そういう意味でのこの読書会はいい味見になったと感じてる。もちろんこの読書会だけで結論を出すつもりはないが、まあ悪いものでもないなと思える味だった。

中三 遠藤慎太郎

自分がこの灘甲戦読書会に参加するのは二回目です。

一回目は中学一年生の時でした。その時はとても緊張しましたし、テーマとなるものが当時の自分にとって、関心が薄かつたものだったのです。あまり発言することができませんでした。今回は

中一 池垣慶悟

今回の灘甲戦では、『君の脇臓をたべたい』というテーマとなつた本が『君の脇臓をたべたい』で、すでに読んでいたこともあり準備は万端でした。当日はと

ても議論が白熱しました。いて話合うというのはとても大切なことだと思いま

す。価値観の違う人と話す

ことで、本の感じ方や、作者の思いを考えることができると思うからです。

今回の本の内容は、脇臓の病気を持った女の子がそのことを知っているクラスの男の子と余生を楽しみ、クライマックスに近づいたとき、思いもしなかつた展開になるというものです。結局作者が言いたいことはよくわからなかつたけど、僕個人の解釈では、人生はこうやって、予想外なことが起こつたり、何があるかわからぬから今のことをわからぬから今のことを行なうからです。これが僕個人的な感想ですが、僕の個人的な感想ですが、本で話し合いをしました。

会で良く意味がわかりました。この本は本当に脇臓が欲しいのではなく、この本についてわかりませんでした。しかし灘甲戦での図書委員の読書

作品の小ネタなどを話し合つていて、すこいと思いました。今日は中学一年生の時に比べると発言できたのが良かったです。しかし他の人と比べるとまだまだなので、次に参加するときはもっと発言できるよう頑張ります。

たなとかひどい駄文だった

などか、私はそういうのを読み書きだと思っていて。でも食わず嫌いはよくない。可能性が広がらない。そういう意味でのこの読書会はいい味見になったと感じてる。もちろんこの読書会だけで結論を出すつもりはないが、まあ悪いものでもないなと思える味だった。

たなとかひどい駄文だった

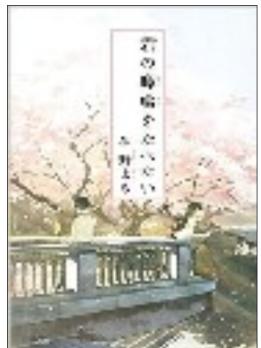
などか、私はそういうのを読み書きだと思っていて。でも食わず嫌いはよくない。可能性が広がらない。そういう意味でのこの読書会はいい味見になったと感じてる。もちろんこの読書会だけで結論を出すつもりはないが、まあ悪いものでもないなと思える味だった。

『君の脇臓をたべたい』

著者・住野よる

出版社・双葉社

(y/すみ)



「君の脇臓をたべたい」…主人公である「僕」が病院で偶然拾つた一冊の「共病文庫」というタイトルの文庫本。それは「僕」のクラスメイトである山内桜良(やまうちさくら)が綴つていた、秘密の日記帳であり、彼女の余命が脇臓の病気により、もう長くはないことが記されていた。

僕は「君の脇臓をたべたい」という本を読みました。あまり発言できませんでしたが、面白かつたのでまた参加したいです。

僕は「君の脇臓をたべたい」という本を読み始めたとき、僕は読み始めたとき、この本についてわかりませんでした。しかし灘甲戦で参加したいです。

一と思います。今回参加した

灘校生との読書会は自分に開けると思うからです。

僕は「君の脇臓をたべたい」という本を読みました。あまり発言できませんでした。しかし灘甲戦で参加したいです。

兵庫県私学図書委員研修会

兵庫県私学図書委員研修会は七月二十五日に関西学院中学部の図書館で開催されました。参加したのは兵庫県にある私学の図書委員で、ビブリオバトルと活動紹介をおこないました。

中三 尾久 雅也

私は、「兵庫県私学生徒図書委員研修会」に参加してきました。なぜ「参加しよう」と思ったかというと私は今年初めて図書委員会に入り、このイベントの存在を知り、どういうイベントなのか気になつたからです。研修会では、ビブリオバトルと各学校の図書委員の仕事の紹介をしました。今回甲南の図書委員で、私は甲南の図書委員の仕事を紹介をしました。



もともとは各学校の図書委員の紹介から始まる予定でしたが、コンピューターの調子が悪くビブリオバトルから始まりました。ビブリオバトルというのは、自分のおすすめの本の良さをみんなに説明して、いかに読んだことがない人にも伝わるか競い合うゲームです。今回のビブリオバトルは、人数が多いので中高に分かれ、中学も2つのグループに分けてやりました。ビブリオバトルというものがどんなものなのかそ

りませんでしたが、紹介が終わったあとは「ラストがどうなるのか知りたい」と思つていました。それも紹介の仕方が堅苦しい感じで紹介するのではなく「こんなところがいい本だ！」と感情をこめて言つていたので、聞いていただけでもその本のイメージが頭に思い浮かんできました。私が見たそのグループではその関西学院の方が勝利しました。その後もう一方のグループの勝者の方ともビブリオバトルをしていましたが、もう一方のグループの方の紹介の仕方もすごうまくて「次機会があつたら読んでみよう」と思つてしましました。結果は、関西学院

の紹介では、パワーと映画化される本を紹介していました。私は、映画も見ていなかつたので最初タイトルを言われたときはどんな本なのか全くわかりませんでしたが、紹介が終わったあとでよかつたとう機会がなかったのですぐに緊張しました。でも練習の時と同じように前で発表するといふ機会がなかつたのですぐに緊張しました。

私は、今回初めて研修会に参加しましたが特にすごく緊張するわけでもなく、堅苦しい雰囲気でもなく、明るい雰囲気だったので楽しかんで参加できました。もし来年の図書委員になったらまた参加して今度は、ビブリオバトルをやってみたいと思いました。



日本人の読書量は世界では多い方?少ない方?

日本人は世界的に見ると本を読む方なのかな。二年一年にわたって行われた調査による結果が出ている。逆に読書量が多いためには下位の国は1位から2番目といふ結果が出ている。象国の中では下位の国は1位がインド、2位がタイ、3位が中国、4位がフィリピン、5位がエジプトとなっており、アジアの国が多くランクインしている。

また一週間の読書時間の差は一位のインドとは六時間半、二位のタイとは五時間四十分、三位の中国とは五時間となつていて大きな差が生まれてしまっている。

読書は知識を得ることだ。読書量の差は知識の差にもつながつてくるのかかもしれない。近隣のアジア諸国との差を少しは危惧すべきだ。知識はスマホでゲームばかりしていても身につかないものだ。しっかりと読書をした方が良いのではないか。

私が勧める本

国語科 和田圭樹先生

今日は国語科の和田圭樹先生に『私が勧める本』という題で書いていただきました。

このたび中3D組図書委員の北村君から依頼を受け、恐れ多くも「中高生に薦める図書」を書くことになった。せっかくの機会なので、文学作品だけを紹介するのではなく、多種多様な本を紹介したい。文学としては『武蔵野』(国木田独歩著・新潮文庫)の中に入っている「忘れえぬ人々」という短い作品はぜひ読んで欲しい。最後の一行為がどんどん返しになつておらず、とても心にしみる。同じく『病牀六尺』(岩波文庫)という意味で正岡子規の『病牀六尺』(岩波文庫)も良い。私の亡き父が書いた本を紹介して申し訳ないが『風呂で読む子規』(世界思想社)も読んでくれると嬉しい。耐水用紙なので、本当に風呂で読める。高校生のときに衝撃を受けた『青春の蹉跎』(石川達三)

著・新潮文庫)もおすすめする。人間の本質をえぐりだしている。これもラストに「どんでん返し」があり、おもしろい。ちなみに村上春樹や村上龍は何が良いのか私には分からぬ。

また、ぜひ知つておいてほしいのが『古事記』である。最近は教科書からも消えてきて、本当に悲しい。中高生には角川ソフィア文庫の『古事記』が最もおすすめである。現代語訳がついているし、解説もしてあるからだ。『古事記』を知らないとして日本は語れぬ。

若い時に読んでこそ意味があるのは『長距離走者の孤独』(アラン・シリト)である。内著・新潮文庫)でも、『愛の試み』(福永武彦著・新潮文庫)もいよいよ愛について考えなくなるからだ。また、ぜひ読んでほしいのは、ドストエフスキイの『罪と罰』(新

庫など、電子図書やネットで読める作品もある。だが、旅行に行くとき以外は、紙で読んだほうがいい。電子図書には「ありがたみ」がないし、線も引けないからである。時代遅れであろうとも、本は紙で読んでこそ良いと思う。新聞も、ぜひ紙で読んでください。ありがとうございました。

社会人になれば、文章力が確実に必要になる。その意味では『高校生のための論理思考トレーニング』や『超入門!論理トレーニング』(共に横山雅彦著・ちくま新書)がとても良い。中学生には『小論文トレーニング』(貝田桃子著・岩波ジュニア新書)をおすすめする。

大学入試対策に関連するなら『秘伝・大学受験の国語力』(石原千秋著・新潮選書)や『東大入試に学ぶロジカルライティング』(吉岡友治著・ちくま新書)もお読みください。今年度は文化祭で古本市を行ったが、本を提供してくださった方ありがとうございました。来年度もどうぞよろしくお願ひします。

編集後記

今年度は初めてといふことでデータが消えてしまったりとなかなか大変な作業でした。しかし節目となる第十九号ということで何とか頑張りました。ここまで読んでくださった皆様、本当にありがとうございました。

来年度もよろしくお願ひします。

古本市について

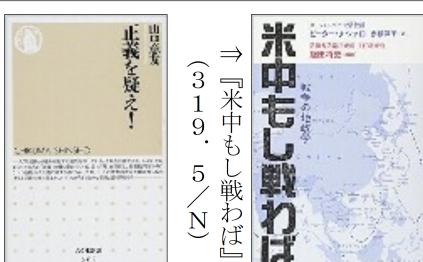
いところもあるので、高校生向けである。

アマゾンKindleや青空文庫など、電子図書やネットで読める作品もある。だが、旅行に行くとき以外は、紙

集まりが悪く来年度に延期になりました。本を提供してくださった方ありがとうございました。来年度もどうぞよろしくお願ひします。

→
『成毛真の超訳・君主論』

(311. 2/N)



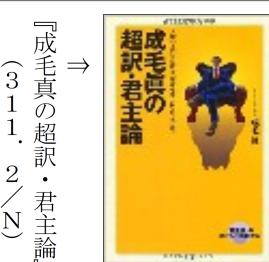
⇒『米中もし戦わば』
(319. 5/N)

→
『正義を疑え!』

(158/Y)



中三 北村拓豈



→
『成毛真の超訳・君主論』

(311. 2/N)